

9. 自己免疫賦活作用を期待し十全大補湯を投与した膀胱癌リンパ節転移の1例

順天堂大学大学院医学研究科 泌尿器外科学

○北村 香介、半田 亞希、平松 一平、杉浦 正一郎
大高 絢子、金山 麻裕子、野間 康央、高畑 創平
知名 俊幸、新井 貴博、青木 裕章、河野 春奈
高澤 直子、永田 政義、磯谷 周治
和久本 芳彰、堀江 重郎

十全大補湯の自己免疫賦活作用による悪性腫瘍への効果についての報告があり、担癌患者へ積極的に投与されるようになってきている。今回、膀胱癌術後のリンパ節転移を認めた症例に対して使用し、その転移が消失した症例を経験したので報告する。

症例は89歳の女性。CEA高値での精査中に見つかった膀胱癌の症例。膀胱部分切除を施行して、病理結果がUrothelial Carcinoma, high grade, pT2b, 断端陰性であった。術後CEAは速やかに低下した。術後6ヶ月でCEAの上昇を認め、画像検査ではCTにて閉鎖リンパ節の腫大を認めたため再発と判断。全身的な化学療法や放射線治療は希望せず、十全大補湯の内服のみを開始した。内服開始し4ヶ月目の採血にてCEAの低下を認め、画像検査ではCTにて転移リンパ節の消失を認めた。副作用などは認めず、現在も内服を継続し腫瘍の進展は認めていない。十全大補湯の抗腫瘍効果で、転移巣が消失したと考えられる。十全大補湯の抗腫瘍効果について、文献的な考察をつけて報告する。